



巨大なドームが印象的な時空の広場

通り抜ける風が心地よい 開放感いっぱいのオアシス空間

今春、大阪の新たなランドマークとして誕生した大阪駅シティ。JR大阪という公共性の高い駅空間と一体化したこの街は都心のビルでありながら至る所に緑があふれ、吹き抜けならではの風通しの良さ、視界の広がりなど駅利用者や周辺で働く人々にとってまさにオアシス的な存在です。その魅力をレポートします。



レポーター：辻 由子さん



南側から見たサウスゲートビルディング全景



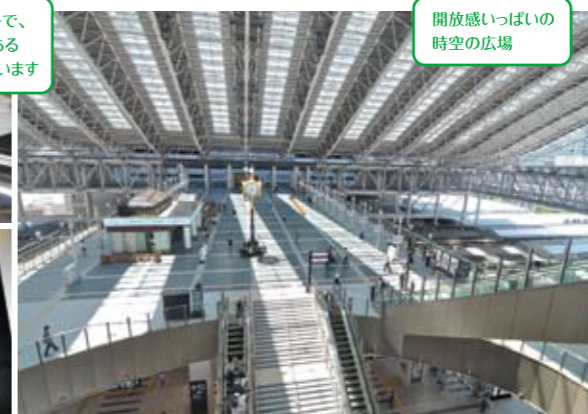
季節感あふれる植栽が、都会の喧騒を忘れさせてくれます(風の広場)



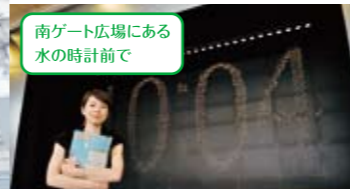
グリーンスタッフの野沢さん(写真右)。ここで育てられる作物について親切に教えて頂きました(天空の農園にて)



エスカレーターで、和らぎの庭のある10階へと向かいます



開放感いっぱいの時空の広場



南ゲート広場にある水の時計前で



東側から見た大阪駅シティの全景

駅全体を見渡せる パノラマ空間にビックリ!

JR大阪駅をさみこむように南北にそびえたつ2つのビルには百貨店やファッションビル、レストラン、オフィスなど最先端の都市機能が集まっています。そんな大阪の新たなランドマークを体験してきました。スタート地点は南ゲート広場。時刻や花などのモチーフを流れる水で表現した「水の時計」が目を引きまします。エスカレーターを上ると、ドームで覆われた「時空の広場」が出現。駅のホーム全体を覆うこのドームは、東西約180m、南北約100mの長さにもなり、17本の梁で巨大なドームを支えているとか。ヨーロッパスタイルのオープンカフェからは、駅を歩きかう列車がよく見渡せ、さわやかな風が抜けていくとも快適な空間です。広場の南北にはシンボルモニュメントとして金時計・銀時計が設置され、待ち合わせ場所として多くの人々に利用されています。

ビルの屋上にある農園。 環境に配慮した工夫も随所に

ノースゲートビルを10階まで上ると、屋外には桜や楓などの樹木が植えられた「和らぎの庭」、さらに11階には、水のせせらぎや風にそよぐモニュメントを配したイングリッシュガーデンスタイルの「風の広場」があり、眼下には淀川や開発中の梅田北ヤードの景色を眺めることができます。ここからは、ひたすら階段を上るのみです。3フロア分を上りきると「天空の農園」が現れます。

屋上ならではの広い敷地、豊かな日射しを利用して、なにわの伝統野菜(大阪の地野菜)やハーブなどを育てています。9名のグリーンスタッフの方々が毎日水やり、手入れなど農園の世話をしており、約5千人もの人が毎日訪れる隠れた人気スポットです。広場や農園、そしてビルの壁面などあらゆる場所にグリーンが見られるこの街。植物の持つ蒸散効果によりヒートアイランド現象の緩和にもつながるとか。他にも、太陽光や風力を利用した発電システムの設置や雨水利用などエコにも積極的に取り組んでいるそうです。

待ち合わせの時間も、 楽しく過ごせる8つの広場。

8つの広場にはそれぞれ「カリヨン時計」「光時計」「太陽の時計」などユニークな時計が設置され、利用者の目を楽しませてくれます。ふと大都会の中心部にいることを忘れてしまいそうなこの街の空間。大阪駅の北側で梅田北ヤードが整備されて、このエリアがさらに活気づくのも今から楽しみです。



金時計



ノースゲートビルから見た工事の梅田北ヤードの様子

取材協力：大阪ターミナルビル株式会社

8つの広場の位置

